

<2023年3月期 第3四半期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2023年2月3日(金) 18:30~19:30

出席者 : CFO 補佐 會田 靖

Q. 化学品・エレクトロニクス本部において3Qでも業績は落ち込まず好調だが、持続性はあるのか。

A. 2Q時には、半導体ビジネスの落ち込みと高い在庫水準が懸念と考えていたが、今3QではスマホやPCの需要低迷はあったものの、車載関連は引き続き好調であった。在庫に関しては、当社だけでなく、サプライチェーン全体で適正化を図った結果、減少に転じた。持続性に関しては、外部環境を見る限り、これまでのような利益は出にくいと考えられており、慎重に見極めていく。

Q. 自動車本部は3Qで更に好調になっているが、持続性はどうか。台あたりマージン低下や新興国での需要低下リスクを見込むべきか。

A. 2Q時は特にロシア影響を危惧していたが、周辺国への配車によりコーカサスやアドリアで販売できたことがプラス。カンボジアやパプアニューギニアに関しても好調を維持している。足元での状況変化はみえておらず、在庫を積み増し、需要に应付している。

Q. 自動車本部は、来期以降も好調を維持する見立てか。

A. 来期以降は、地政学リスクの解消や需給バランスが正常化した場合、これまでのような高水準の利益は難しいと考える。

Q. 全体として自動車生産が厳しい中、御社の自動車販売が好調な理由は。

A. 当社として、これまで販売実績を積み上げて期待に応えられていることから、更に配車をいただいていると考える。

Q. ユーラスは3Qも好調であったが、欧州地域の状況につき教えてほしい。電力価格のシーリングも踏まえた上で、どのような利益を来期は期待できるか。

A. 当社の風力事業は、オランダ・スペイン・イタリアが欧州の中心地であるが、100%出資であるオランダの利益貢献が一番大きい。スペイン・イタリアは持分での取込みだが、タリフの恩恵で好調。足元、オランダでの価格は下落してきており、イタリアでも価格がシーリングにタッチするレベルまできているため、来期以降は今期のような利益は期待できないとみている。

Q. 4Qの見立てに関して控えめだが、修正をしない背景はあるか。一過性を見込んでいるか。

A. 金属市況が落ち始めていることから、今後ラップ損を懸念している。一過性については、ユーラスでのリプレイス費用やアフリカ飲料事業での苦戦を懸念しており、引当の必要性を検討していることから、業績予想を据え置いている。

Q. 他商社が株主方針を見直しているが、御社の対応は。

A. 従来の配当性向 25%以上というのは変えなくてはいけないと感じており、新しい中期経営計画を踏まえ、方針が出せるよう社内で議論している。

Q. 4Qで見込む一過性損失の金額規模は。

A. ユーラスのリプレイスメントは、50億円程度。アフリカ飲料事業については、数十億円規模と考えている。

Q. 今期から来期にかけて、落ち込む要素は具体的にどこか。

A. 金属市況はリチウムも含めて落ち込むと想定しており、来期は苦戦するとみている。ユーラスについてもエネルギー価格が落ち着いてきており、今期ほどの利益は出ないとみているが、これは価格の適正化とも言える。化エレに関しては、半導体での利益水準は落ち込むとみているが、当社は車載半導体だけではないので化学品などで支えていきたいと考えている。

以上